

令和6年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立酒田東高等学校

学校教育目標 めざす生徒像	1 文武両道を推進する。 2 「知・情・意・力」を身に付けた生徒を育成する。
------------------	---

達成度	A 達成(8割以上)
	B 概ね達成(6割～7割)
	C やや不十分(4割～5割)
	D 不十分(3割以下)

重点目標	1 「自主・自律の精神を持ち、自走できる生徒」の育成
	2 「豊かでしなやかな心を持ち、違いを寛容に認め合える生徒」の育成
	3 「チャレンジ精神とスキルを持ち、周囲をリードできる生徒」の育成
	4 「確固たる自信を持ち、あらゆる場面で力を出し切れる生徒」の育成

番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価			
		具体的方策と指標・基準等	目標の達成状況、達成に向けた取組み状況	達成度	成果と課題、次年度への改善策	評価 意見・要望・評価等	
1	「自主・自律の精神を持ち、自走できる生徒」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学指導要領の確実な実施と、学習指導の不断の研究</li> <li>・大学入試問題研究と層別指導の推進</li> <li>・志望達成に必要な家庭学習の質と量の確保と生徒の主体性や自走力を育てる学習指導</li> <li>・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の教育課程の実施による、大学入試・入学後にも役立つ組織的・体系的な探究型学習の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程完成年度にあたり、観点別評価についてなど、各教科で研修・研究の成果を共有した。</li> <li>・各科目・各年次でそれぞれの習熟度、進路目標に応じた授業・指導を行った。</li> <li>・少しずつではあるが、放課後自主的に学習している生徒の姿が見られるようになってきた。</li> <li>・各年次で、総合的な探究の時間の企画・立案・実施を着実に行うことができた。</li> <li>・課題研究や発表会では、年次・関係分掌で協力して計画を進め、全職員体制で実施できた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題に対して、自主的に取り組める生徒が増えるような取り組みを継続して検討。</li> <li>・難関大志望者の早い段階での意識付けと、指導体制のさらなる整備。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度や進路目標等、個に応じたきめ細かな指導を行っており、学力の向上や進路実現に確実に繋がっていると思われる。特に、中学校時に伸び悩み、向上を図れなかった英語力が大きく向上していることは、学校の努力と愛情に他ならない。これは、生徒自身の自信と主体性の醸成に寄与していると思う。今後にも期待したい。</li> <li>・探究型の課題研究への取り組みが、確実に生徒の学びに向かう姿勢を高めている。発表を聞く度にその成長を見ることができる。生徒自身もそれは認識していると思う。特に、実験がなかなか成功せず失敗を繰り返しているが、その度にその原因を探り検討し検証して次の実験に向かう。これこそが本当の探究学習であり、探究学習が目的化せず、手段化しており生徒の力を伸ばすことに繋がっている。素晴らしい。</li> <li>・課題研究や発表会において、テーマ設定や発表の仕方に独創性など成長が感じられるものが多かった。</li> <li>・校外の施設(市役所、ミライニ)で勉強している酒東生を見かけます。</li> <li>・周りの仲間が努力している姿を見て、「自分も」という生徒が多いような気がしますし、アンケート結果からも推測されます。</li> <li>・自分の進路のために、自ら努力する「自走」は、先生方が御指導して下さった成果だと思います。</li> <li>・今年度の難関大学や医学系への進路状況から学習分野について、自身で積極的な取り組みをしなければ得られない結果であると思うため、自走できる生徒が増えているのではないかと感じています。また、学習以外の取り組みについても災害復旧への支援ボランティア活動や課題研究などにも高い自主性を持って取り組んでいる様に感じました。次年度も継続していただければ幸いです。</li> <li>・教員集団の指導力の高さこそが酒東最大の強み。「SAKATO新世紀」とSSH4年間の実践で磨きがかかった指導力を、さらなる「自走力」の向上に繋げていただきたい。</li> </ul>
2	「豊かでしなやかな心を持ち、違いを寛容に認め合える生徒」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・端正な装いと元気で明るい挨拶の推進</li> <li>・学校の教育活動全体を通じた道徳教育の展開と清掃活動の充実</li> <li>・酒東生としての自覚や矜持を土台とした社会貢献活動の推進</li> <li>・台湾・武陵高級中学、マレーシア・SSASの姉妹校・交流校など、国内外の生徒・学生等との積極的な交流活動の推進</li> <li>・年次行事やLHR等を活用した仲間づくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則を大きく逸脱する生徒はおらず、全体として落ち着いた生活を送ることができた。</li> <li>・生徒会活動や部活動や校外活動に積極的に参加し実績を残している生徒も見られた。</li> <li>・ボランティア活動など様々なことに「自ら」「積極的に」「周囲を見て」行動できる生徒が出てきた。</li> <li>・2年次の台湾研修旅行、1年次探究科希望者のマレーシア研修などの海外研修では、現地の学生などと積極的にコミュニケーションを取り、交流している姿が見られた。</li> <li>・学校行事を通してクラスの団結が深まった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酒東生として外部に誇れる活躍も多く、マスコミ等で取り上げられることも多かった</li> <li>・基本的な生活習慣が確立されていない生徒も一部に見られるため、保護者との連携と、継続した声掛け。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識も醸成され、常識的な社会性が育っている。校内での来校者への対応はもちろん、校外や公共施設での態度も好感が持てる。この輪が広がることを望む。</li> <li>・部活動の力も少なからずあるのかもしれないが、教科学習や課題研究を通じた満足感、成就感が自己肯定感や自己有能感を育てていると感じる。それが原動力となって、積極性や思いやりの心が生まれているのだろう。酒東の継承したい伝統である。</li> <li>・ボランティアへの参加はする生徒の存在は嬉しい。海外研修は、高校生の視野の拡大に非常に有益だと思うし、成果が上がっている。学校行事を増やしている状況は、対人形成に効果が出ていると思う。</li> <li>・生活習慣について、朝起きるのがつらいと感じる年代なので、多少は仕方ないかなとも思います。そのような中でも、先生方が一生懸命電話やコミュニケーションツール(チャット)を活用して励まして下さり謝しています。(親の言葉よりも先生の言葉が効く)</li> <li>・遅刻や欠席者ゼロは困難だと思いますが、教職員の皆様の取り組みとしては、A以上に値すると思っています。</li> <li>・外部報道記録集では、地域の人や異文化圏の人との交流、福祉活動や文化活動など、外部で活躍する酒東生の様子がありましたが、心の豊かさや互いを認め合う気持ちやなくては達成できない事であり、過去の進学校では取り組みにくい活動でもあったと思いますが、このような活動を通じて、自己肯定感や高い社会性を身に付けて成長させていると感じました。継続していくことで学校のイメージも変わっていくように思えます。</li> <li>・学業や部活動だけでなく、様々な場や機会における生徒の多彩な活動を、もっと地域に発信していただけたら、中学生や保護者の関心が一層高まるのではないだろうか。</li> </ul>
3	「チャレンジ精神とスキルを持ち、周囲をリードできる生徒」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的課題と人生を結びつけて考えることで、高い志につながる指導の推進</li> <li>・高い意欲の喚起と堅持に向けた上位層グループの意識的育成</li> <li>・個々の生徒の持つ強みを大きく伸ばす指導の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部イベントやコンテスト等に多くの生徒が参加し、外部の人と交流することで自己有用感を持ち成長する様子が見られた。</li> <li>・外部での取り組みやコンテスト等で論文を発表したり、賞を受賞するなど活躍が見られた。</li> <li>・県主催の医進塾や難関大オンラインセミナー、地元大学進学促進セミナーなど様々な機会を捉え、他校生から愛顧を受けそれぞれの目標に向けて努力した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部で活躍する生徒がさらに増えるように、全職員で継続して指導に当たる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物怖じしない生徒が増えてきていると思う。あいさつや応答(受け答え)にそれが顕著に表れている。今後社会で通用し活躍していく人材を育てるという観点では、非常に重要なことである。社会を引っ張る人材が多数輩出されることを期待する。</li> <li>・校内の活動や個人の学習にとどまることなく、外部に開かれた活動であったり、地域社会に貢献できる内容であったりすることが、挑戦意欲に繋がっている。これを、一人でも多くの生徒に経験して欲しいと願う。</li> <li>・外部イベント等に多く参加することで、意志の向上に実績をあげていると感じる。</li> <li>・課題研究発表会や外部主催コンクールへの取り組みを通じて、課題解決への取り組み方を学ぶことができていると感じています。</li> <li>・また、課題解決のために自分は何を学ぶ必要があるのか、何のために日々の勉強をしているのかに気づくことができ、「1」の自走できる生徒につながっているような気がします</li> <li>・課題研究発表活動を通じて、課題解決に向かうチャレンジ精神や高い研究技術を学んでいるように感じました。受験科目の学習だけでは得られない学びであり、またチームで取り組むことで人間関係の調整力やリーダーシップの発揮など多くの学びを得ている生徒もいたと感じています。校内だけでなく、地域に広げることで、さらなる成長の機会が得られる取り組みになると感じます。次年度も楽しみにしています。</li> </ul>
4	「確固たる自信を持ち、あらゆる場面で力を出し切れる生徒」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康の維持により、99%以上の出席率確保</li> <li>・生徒の発想や主体性を生かした生徒会活動・生徒会行事の運営と充実</li> <li>・凡事徹底の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な配慮を必要とする生徒が増えてきており、また、体調不良により欠席をする生徒もあり、99%の出席率を確保するのは厳しい現状である。</li> <li>・要配慮生徒に対しては、SCを活用したり、保健部を中心として教職員で情報を共有するなど対応している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NAS委員会を定期的に開催し、関係職員で情報を共有し、適切な支援方法を検討する。そのうえで、全教職員で共有する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外向性が内向性よりも常に勝るわけではないが、内向的であっても社会性は身につけていかなければならない。リーダーになることも大事だが、リーダーを支えるフォロワーやサブリーダーの存在もまた重要である。そういった意味で、それぞれの生徒が自分の役割や個性、能力を自覚し、諸活動に取り組んでいると見ることもできた。そんな姿を諸行事で見たり、これが個人の将来の幸せに繋がっていくのだろうと考えたりすることは、見ていてもとても気持ちがいいものである。</li> <li>・体調不良や支援を要する生徒はいないわけではない。そのこと自体は全く問題ではないが、そのことによって自己否定したり、自尊心を低下させたりしてはいけない。卒業後、大きな社会へと進んでいく以上、その際のソーシャル・スキルを高校生なりに身につけさせたいものだ。</li> <li>・問題を持つ生徒の数や程度はわからないが、それほどひどいものではないと思っている。皆勤の生徒がもう少し多くても良いかと思う。</li> <li>・自走できる生徒の育成に力を注ぎ取り組みを行っている一方で、配慮が必要な生徒にも、こまめに対応していただきありがたいです。</li> <li>・生徒も苦しいし、親も苦しいので、何とか救っていただけよう、今後も手を差し伸べていただけるとありがたいです。</li> <li>・課題研究発表の大きな見せ場であるプレゼンテーションでは、多くの生徒の発表を聴講させてもらいましたが、自信をもって質疑応答できる生徒、前もって質問させる部分を真の様にしかける生徒などテクニックが高い部分も見られ感心しました。一方で、想定問答など、準備を多く重ねることで自信をもって対応できたと感じる生徒も多いと思いました。経験を重ねることで確固たる自信を築くことにもつながるので、継続して取り組んで欲しいと思います。</li> <li>・要配慮生徒の多様なニーズに対し、細やかに個別対応がなされている事実にかから敬意を表したい。外部からはなかなか評価されにくい分野だが、尊い教育実践である。</li> </ul>
総括		<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科と探究科それぞれの特性を生かした指導方法・評価方法の研究と実践を継続しながらも、学校全体としての指導方法の研究を進める。</li> <li>・層別指導など、個別最適化したきめ細やかな指導体制を構築し、多様な生徒に対する指導体制を構築する。</li> <li>・総合的な探究の時間、及び教科の授業における教科横断的な探究型学習を通して「解のない課題」に取り組む人材育成と大学入試への対応力を深める。</li> <li>・スーパーサイエンスハイスクールの取り組みについて、現状と課題を分析し、Ⅱ期目申請に向けて調査研究を行う。</li> </ul>		<p>自己評価及び学校関係者評価の改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科学習や課題研究棟を通して、生徒が満足感、成就感、自己肯定感や自己有用感をもてるような継続した取り組みと、さらなる工夫。</li> <li>・リーダーの育成とともに、リーダーを支えるフォロワーやサブリーダーの育成。</li> <li>・自分で様々な力を身に付けるために、さらに高いレベルで「自走」できる生徒の育成。</li> <li>・外部との協働や連携を強化し、さらなるコミュニケーション力や高い社会性の育成。</li> <li>・学校活動等をもっと地域に発信し、中学生や保護者等により関心をもってもらえるように取り組む。</li> </ul>			